

自動制御の多分野応用小委員会（第24期・第3回）議事録

日時： 令和元年5月7日（火） 15:00～17:00

場所： 東京工業大学 大岡山キャンパス 西8号館 3階 W311 室

出席（順不同・敬称略）全17名

水野 毅（埼玉大、委員長）、井村 順一（東工大、副委員長）、藤崎 泰正（阪大、幹事）、浅間 一（東大）、榎木 哲夫（京大）、原 辰次（東工大）、大須賀 公一（阪大）、岡 宏一（高知工科大）、貝原 俊也（神戸大）、佐藤 昌之（JAXA）、増田 士朗（首都大）、山下 善之（東京農工大）、西村 秀和（慶応大）（以上13名）

報告者：東 俊一（名大）、江丸 貴紀（北大）

オブザーバ：結城 義敬、田中 ひろみ（SICE 事務局）

欠席（順不同・敬称略）

金子 修（電気通信大）、加納 学（京大）、田川 泰敬（東京農工大）、山本 透（広島大）（以上4名）

資料 1 自動制御の多分野応用小委員会（第24期 第2回）議事録

資料 2 第61回自動制御連合講演会終了報告

資料 3 制御工学教員協議会（2018年）報告

資料 4 第62回自動制御連合講演会実施計画

1. 自動制御の多分野応用小委員会（第24期 第2回）議事録の確認
書面審議により承認された配布資料1の議事録を確認した。

2. 自動制御連合講演会運営に関する事項

① 第61回自動制御連合講演会終了報告

東俊一（名大）実行委員長より、配布資料2に基づいて報告があった。

- ・講演数：384件（一般：147件、OS：237件）
- ・特別講演：1件、特別企画：3件
- ・参加者数：613名（内、企業参加者数：73名）

【意見交換内容】

- ・500名で予算立てしていたが、600名を越える参加者があった。
- ・予算書の参加費が実際と異なるのは、予算書作成後に参加費を1,000円値上げしたためである。なお、よほど大きな変更でないかぎり、事前承認などを求めることはなく、幹事学会に任せている。

② 制御工学教員協議会（2018年）報告

水野毅（埼玉大）委員長より、配布資料3に基づいて報告があった。

- ・平成31年度幹事校および代表者には、山下裕（北大）教授が推薦、承認された。

③ 第62回自動制御連合講演会準備状況

江丸貴紀（北大）幹事より配布資料4にもとづいて状況の報告があった。

- ・幹事学会は日本機械学会で、小林幸徳（北大）実行委員長のもとで2019年11月8～10日に開催される。（当初は11月6～7日としていた。）

- ・参加者は500名を見込んでいる。
- ・OS提案の募集を開始。

【意見交換内容】

- ・日本機械学会が幹事学会となる自動制御連合講演会では初めて登壇料をとる形とする。
- ・参加費は、第61回と同じ金額とする。
- ・宿泊の手配については、参加者各自での手配をお願いしたい。ただし、各種イベントにより宿泊施設が混雑することもあり得るので、関連するイベント情報をチェックしておくこととした。

④ 制御工学教員協議会（2019年）計画

- ・浅間一（東大）委員より、Frank Allgoewer（Stuttgart大）教授をはじめ IFAC Officers メンバーの4名に特別講演をお願いしたいとの提案があり、教員協議会と IFAC 分科会との共催の形で、1.5～2時間程度 11時～12時半ごろの実施を探ることとした。「後援：日本学術会議 IFAC 分科会」とするた

め、日本学術会議へ後援を依頼する。なお、第 61 回自動制御連合講演会では、「後援：日本学術会議」となっている。浅間委員より、山下裕代表へ連絡をとることとした。

⑤ 第 63 回自動制御連合講演会計画

計測自動制御学会が幹事学会となり、平田研二（富山大学）実行委員長、山本茂（金沢大学）プログラム委員長により計画することとなった。

3. IFAC 分科会の活動について

①榎本哲夫（京大）IFAC 分科会委員長より、2019 年 1 月 22 日開催の IFAC 分科会について報告があった。特に、日本での開催が決定した IFAC 会議が次のとおり報告された。

- ・ MICNON 2021 (TC2.3、会期：2021.8.25-27、開催場所：東京都、NOC Chair: 伊藤博氏（九州工業大学）)

- ・ ROCOND 2021 (TC2.5、開催場所：京都市、NOC Chair: 蛭原義雄氏（京都大学）)

- ・ SYROCO 2021 (TC4.3、会期：2021.8.30-9.2、開催場所：松本市、NOC Chair: Gentiane VENTURE 氏（東京農工大学）)

②浅間一（東大）委員より、次の報告があった。

- ・ 日本学術会議 IFAC 分科会の予算は、電気電子委員会の下で決まるが、抑制傾向にあるため、旅費がすべて支出できない可能性がある。

- ・ IFAC 本部より、次の Term の推薦依頼がきていて、将来の Officer になる方を推薦する必要がある。日本としては女性委員を増やす必要があり、IFAC 2023 に向けて、来年のベルリン前までには道筋をつけておく必要がある。

- ・ 原辰次（東工大）委員より、2020 年のベルリンでは、IFAC Foundation が「Control Engineering Workshop for Girls - Solving today's problems」という企画をサポートする予定であり、IFAC 2023 でも何か必要ではないかとの意見があった。

4. 今後の活動計画

水野毅（埼玉大）委員長より、11 月 9 日（土）に当該委員会を開催する予定であるとのアナウンスがあった。

以上